

高等教育院未来プラン2021

～自律的学修者の育成～

■ 高等教育院未来プラン2021で目指すこと

学生一人一人が、自らの未来に向かって必要な資質や能力を身に付けるとともに、自律的学修者へと成長できるよう、意欲的・主体的に学べる教育環境を提供します。

LMS（Learning Management System）や遠隔・オンデマンド授業の活用など教育のデジタル化を進め、データ駆動型の教育への転換を図ります。各種教育データを効率的に収集して、調査・分析し、客観的データに基づいた教育改革を進めます。

■ 社会情勢の変化・現状と課題

現代は、テクノロジーの進化によって、あらゆるものを取り巻く環境が多様で複雑、かつ予測が困難な「VUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity）の時代」と呼ばれています。このような社会を生き抜く学生には、生涯にわたって自ら学び、変化し続ける力が求められています。

個々の学生の能力、特性、置かれた環境・状況は同じく多様です。このため、学生一人一人を自律的学修者へと導くには、様々な客観的データに基づくデータ駆動型教育への転換が必要です。

教養教育及び全学語学教育の統括にとどまらず、教育改革を全学的に推進する高等教育院として、教育分野におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進し、種々の教育データを有効利用した教育施策の立案を全学的に進めていきます。

■ 代表的な取り組み

教育分野におけるDXの推進

学修者本位の教育を進めるためには、学生の理解度に応じた授業の工夫や学修履歴を踏まえた履修指導が必要となります。教育分野におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進して、学修データを効率的に取得できる体制を整えます。

名市大未来プラン2021 1-(6)

教学IRの推進

各種教育データを効率的に取得し、学生の理解度に応じた授業の工夫や学修履歴を踏まえた履修指導など、個々の学生に寄り添う教育施策を実施します。

名市大未来プラン2021 1-(3)

学修者本位の教育の実現

学生が自らの将来に向かって必要な資質や能力を身に付けられるよう、意欲的・主体的に学び、成長することができる教育環境を提供します。

名市大未来プラン2021 3-(3)

(1) 教育分野におけるDXの推進

学修者本位の教育を進めるためには、学生の理解度に応じた授業の工夫や学修履歴を踏まえた履修指導が必要となります。教育分野におけるデジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進して、学修データを効率的に取得できる体制を整えます。

名市大未来プラン2021 1-(6)

【実行項目】

- ①学務情報システムを始め各種システムに格納された教育データを収集するデータベースを構築し、データベース内の各種データについて、教職員が閲覧・利用可能となる体制を整備（2021年度～）
- ②オンデマンド教材、e-ラーニング教材などの開発・利用環境の整備（2024年度～）

(2) 教学IRの推進

各種教育データを効率的に取得し、学生の理解度に応じた授業の工夫や学修履歴を踏まえた履修指導など、個々の学生に寄り添う教育施策を実施します。

名市大未来プラン2021 1-(3)

【実行項目】

- ①各種教育データを分析するBIツールの導入（2021年度～）
- ②教学IRを推進するための検討部会の設置（2022年度～）
- ③教学IR推進のためのデータ分析人材の採用（2024年度～）

(3) 教養教育の大幅改革

2018年度に見直したカリキュラムポリシーや2019年度に定めた教学マネジメント基本方針を各授業科目に反映させます。Society5.0やSDGsに見られる社会情勢の急速な変化に鑑み、一般教養科目におけるカリキュラムの改革、改正を目指します。

名市大未来プラン2021 1-(2)

【実行項目】

- ①オンラインによる語学学習機会の拡大（2023年度～）
- ②SDGsやsociety5.0など日本や世界を取り巻く社会課題に関わる内容を扱う授業の増加（2023年度～）
- ③リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育の導入（2025年度～）
- ④キャリア教育の見直しによる学修姿勢の強化（2023年度～）
- ⑤PBL教育の単位化による、より実践的な学修機会の提供（2025年度～）

(4) 高大連携事業の発展

高等学校と大学が互いの教育内容を深く知る取り組みを継続し、2021年度から実施している人事交流など高大接続を踏まえた教育分野での連携をさらに発展させます。

名市大未来プラン2021 1-(7)

【実行項目】

- ①高等学校の学校説明会にうかがうなど本学の高大連携事業や市立高校生を対象とした推薦入試について紹介する事業の実施（2021年度～）
- ②人事交流において高等学校から派遣される教員の協力による大学教育のさらなる活性化（2022年度～）

(1) 学修者本位の教育の実現

学生が自らの将来に向かって必要な資質や能力を身に付けられるよう、意欲的・主体的に学び、成長することができる教育環境を提供します。

名市大未来プラン2021 3-(3)

【実行項目】

- ①総合大学の強みである多様性を活かし、学びの動機となる自己肯定感や使命感を育みつつ、学修方法の習得を目指すカリキュラム改正を実施（2022年度～）
- ②教学IRの推進で得られた分析手法の活用による、全学教育機構会議を通じた全学への教学IRの波及（2023年度～）
- ③キャリア教育の見直しによる学修姿勢の強化（2023年度～）（再）

(2) 課題解決型人材の育成

社会の様々な課題に目を向け、その解決に積極的に関わる人材を育成するため、自治体、企業などとの連携によるPBL教育を導入し、課題解決型人材の育成を目指します。

名市大未来プラン2021 3-(3)

【実行項目】

- ①PBL教育、インターンシップの単位化による、より実践的な学修機会の提供（2025年度～）

国際化

(1) グローバルシチズンシップの育成

地元経済団体と連携し、キャリア教育を充実させることで社会に対するより広い視野を養い、地球市民としての自覚を持ち、地球規模で活躍する意識を持った人材を育成します。

名市大未来プラン2021 4-(1)

【実行項目】

- ①海外に進出している企業と連携し、学生に海外での日本企業の活動を紹介することで、地球市民としての意識を育成（2025年度～）

(2) 共生社会や国際化ニーズへの対応

国際交流センターと連携するなど教育分野における共生社会や国際化への取り組みを進展させます。

名市大未来プラン2021 4-(1)

【実行項目】

- ①教養教育科目における共生社会や国際化を扱う授業科目において国際交流センター等の協力を得て、多文化共生や国際化に関する拡充の取り組みを実施（2025年度～）

経営基盤

(1) TEEPの自立的運営

進化型実務家教員養成プログラム（TEEP）についてコンソーシアムを結成している3大学と専門コースを開設している他研究科と連携し、自立的な運営を目指すとともに、地域を支える人材を輩出します。

名市大未来プラン2021 6-(2)

【実行項目】

- ①自己財源獲得の検討（2022年度～）
- ②補助金交付最終年度として自走に向けた準備の完了（2023年度～）

組織マネジメント

(1) 体制の強化

各種教育データの収集・調査・分析（教学IR）機能やFDの推進など高等教育院の組織力の強化を図ります。

名市大未来プラン2021 7-(2)

【実行項目】

- ①教学IR推進のためのデータ分析人材の採用（2024年度～）（再）
- ②教育力向上のためのFD推進人材の採用（2024年度～）

(2) 教育人材育成への学内連携強化

大学教員を目指す博士後期課程大学院生、ポスドクなどを積極的に教育補助スタッフとして採用し、教育経験を積ませるとともにより手厚い学部教育を推進します。

名市大未来プラン2021 7-(2)

【実行項目】

- ①博士後期課程大学院生、TEEP受講者などの教育現場への積極的登用（2025年度～）

MIRAIへの展開

(1) 教育現場での垣根を超えた交流

一般教養科目、キャリア教育などにおいて他学部生や卒業生等との交流機会を活用して、多様な考え方に触れさせるとともに、名市大の一員であるとの意識を育みます。

名市大未来プラン2021 8-(5)

【実行項目】

- ①教育現場における学部横断的なPBL教育の充実（2025年度～）
- ②キャリア教育における名市大卒業生、名市大サポーターの積極的活用（2025年度～）